

1. 単元名：「卒業式ー自分たちの卒業式を自分たちで祝おう！ー」

2. 単元概要

冬休みが明け3学期に入ると子どもも教師も「卒業」を強く意識するようになる。「卒業制作」は各学部でそれぞれが自主的に制作していたが、「卒業式」そのものは「してもらう」受け身の「つまらない」儀式であった。並行して「卒業を祝う会」という在校生主体の行事はあったが、「卒業学年」としてのプライドをかけた挑戦的・創造的な「卒業式」にできないかという強い思いを当時の教師集団は抱いていた。子どもたちにも投げかけ、小学部6年生、高等部3年生にも声をかけ、子どもと共に校長先生にも掛け合い「卒業式の改革」を行うことになった。

当時、児童・生徒会主催であった全校での「祝う会」は取りやめ(子どもの様子により寄り添うためにも各学部ごとに実施)、「卒業式」そのものを子ども主体にどこまでできるかの挑戦であった。

①会場は前年度まではスクール形式で全員が正面を向いていた。そのスタイルを一変させて、図にあるように幅広で電動車椅子で移動できる角度のゆるやかなスロープの制作設置ー高等部3年生担当

②「卒業の花道」と称されることになるスロープの両端には「菜の

花プランター」と「プランターカバー」での装飾ー中学部3年生

③会場装飾は小学部6年生が担当する。

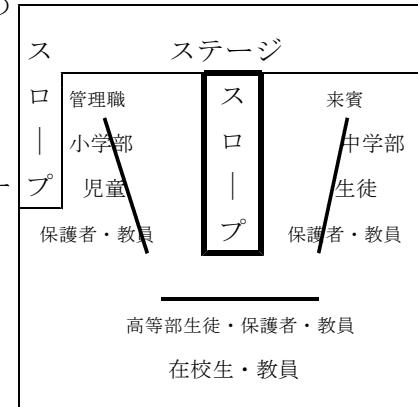
④「卒業証書授与」で、小学部、中学部は中央スロープを上って、左手スロープより下る。高等部は逆で、生徒の希望で中央スロープを下ることでより目立てるようにする配慮をした。

⑤それまでは祝う会で実施していた「思い出のアルバム(スライド)」を短時間で「卒業式」後半で実施することとした。

⑥「思い出のアルバム」から司会進行はおかげに、「呼びかけ」「群読」と「スライド」で進行し、合間には「合唱」を組み合わせるという総合芸術的なスタイルとした。

⑦「思い出のアルバム」の途中から、在校生も「群読」「合唱」等にも加わり、保護者も含めた「全員合唱」で幕を閉じるストーリーとした。

⑧各学部卒業生から「卒業式実行委員会」を組織して、「呼びかけや群読」のストーリーや準備の調整を行った。



3. 単元目標

- ①「卒業を自分たちで祝う！」という強い思いを実現する「卒業式」のために、各学部の卒業学年の子ども・教師が一丸となって「卒業式の準備・練習」に取り組んでほしい。
- ②スロープ・プランターカバー・装飾の制作から「呼びかけ・群読」「合唱」…等の練習に、精いっぱい取り組んで「自分たちで祝う卒業式」を迎えてほしい。

4. 単元の日程計画ー作業学習中心の高等部を除き、小・中学部は1月以降、午前中から関連の準備(高等部は午後に準備)を行うことになった。※中学部の例：本レシピ「領域(はたらく)」に掲載

5. ポイント解説

- ①行事というのはマンネリ化しがちで、特に、「儀式」行事はその傾向が強い。その打破を試みた実践。「呼びかけや群読・合唱」は大変感動的な雰囲気になり、多くの高等部生・保護者が涙した。
- ②「最後の授業」である「卒業式」にも「子ども主体の学校生活づくり」を貫いた生活単元学習である。